

薬剤師・薬学生を対象とした実践的 Evidence-based Medicine (EBM) 教育の試みとその評価

○清水 忠¹, 上田 昌宏^{1,2}, 豊山 美琴³, 大森 志保¹, 高垣 伸匡⁴

¹兵庫医療大薬, ²兵庫医大病院薬, ³関西労災病院薬, ⁴千春会病院

薬剤師・薬学生は、今後、Evidence-based Medicine(EBM) を実践することが求められつつあるが、薬剤師・薬学生に対して、原著論文の質の評価などのスキルを体験型学習法によりどれだけ身につけたかの学習効果の測定の報告はごく限られている。そこで我々は、短期間の体験型学習会開催し、その学習効果を開始前と終了後に実施した参加者の自己評価による理解度アンケートで評価した。

予め仮想患者シナリオ&課題論文を配布し、参加者に事前学習を推奨した。学習会の学習方略は、学習内容に関する導入講義と5～6人の小グループ討議とした。学習効果は、学習会前後の理解度を参加者の自己評価により4段階の評定尺度で測定した。

学習効果は、4点を満点として、学習会前後の理解度の平均値の差で評価した。4点を満点とした4段階評価での理解度確認アンケートの平均値が学習会前に比べ学習会後で上昇したことから(学習会前:2.80, 学習会後:3.26 post-seminar; $p < 0.001$)と、体験型学習会により学習効果は得られた。

本シンポジウムでは、学習効果測定の結果だけでなく、学習会開催におけるシナリオ作成・論文選択について考慮した点なども紹介し、今後、薬学部における教育や卒後研修会を実施する上でヒントとなるような話題を提供する予定である。